

テモテへの手紙第一 第6章 20節

「テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ話、また、まちがって『靈知』と呼ばれる反対論を避けなさい。」

若き伝道者が人々に仕えてゆくときには、多くの出来事が初めてのケースとなった。初体験にとまどいながら、試行錯誤の取り組みであったと想像される。世相が乱れ、課題に直面する社会では、ありとあらゆる流言があり、恐れと不安から人々は勝手放題の言葉を垂れ流し状態となり、またそうであったかもしれない。謂れの無い、どこにも根拠が無い、思うがまま、思いつきの言葉が氾濫する。その渦中にある者への励ましの言葉である。

送られた手紙を開き聞き入って支えられたでしょう。送り手がそこにいるように励まされ、慰めを得たでしょう。勇気が湧いたでしょう。混乱と試練の中で、ゆだねられたものを守りなさい、と勧められます。時代や社会の風潮に巻き込まれず、巻き込まれて自分を見失うことなく、主にゆだねられたことを忠実に生きればよいのだ。俗悪なむだ話、むだな議論に時を費やさないように。

俗悪なむだ話、議論は人の事であり、噂話であり、井戸端会議でしかない。話すなら、使命をゆだねてくださった主なる神と対話しなさい。たとえ、人を前にしても。